

自然と人

市川中学校 二年 横尾 彩音

太陽がキラキラと輝いている。私は、昨日植えたばかりの苗や種に水やりをしている。花壇の花にも水やりをする。自分が手伝ったり、育てたりしている植物が芽を出し背が伸びる。それを見ていると、自然と笑顔になっている。

私が祖母の畑仕事を手伝い始めたのは小学二年生ぐらいのときだ。大きな畑と小さなハウスがあり、よく手伝っていた。四月、五月あたりになると祖母が種や苗を買ってくる。ナスやきゅうり、トマトなど様々だ。初めての作業は、種や苗を植える仕事だった。植物によって種の形から、植え方、肥料のあげ方が違うことをこのとき知った。とまどいや失敗も多くあったが、祖母に教わりながらやることで楽しくできた。だが、植えるだけが農作業ではない。水やりから草取り、間引きなどやるのがたくさんある。農家さんはとても大変な作業をしているのかと、驚きと尊敬の気持ちになった。

七月ぐらいになると夏野菜が収穫できるようになる。夕方ごろ畑に行き、できた野菜を収穫。そして、収穫したものがその日のサラダに使われるといったことも多くあった。自分が育てるものを手伝ったからか、いつもよりおいしさと感じた。他には、ブルーベリーやスイカをとって食べたり、ジャムにしたりして味わうこともあった。どれも、よりおいしさを感じた。

秋になるとさつまいもを掘ったり、かぼちゃをとったりする。さつまいもは、地中にあるので土を掘って探し出す。私と妹と祖母でやっている。ときに大きかったり、小さかったりとサイズはバラバラだ。でも、サイズがバラバラだから、次はどのくらい大きさを予想するかを予想しながらできる。収穫がより楽しくできる。さつまいもは焼きいもや干しいもに、かぼちゃは、煮物によく使われている。やはり、食べてみるとスーパードで買ったときよりもおいしくなっている。気持ちの変化でも心を豊かにできる植物は偉大だと思った。

次の年は、くわを使って土を耕す作業をやらせてもらった。前傾姿勢をとって重いくわを持ち上げるのは大変だ。今は機械があるが、昔は全て手作業でやっていたので、苦労が何十倍にもなると思った。苦労したり、楽しい気持ちになれたり、うれしい気持ちになれたりするのは素晴らしいと思った。

それは野菜だけではなく、花も同じようにいえると思う。私の家の庭に咲いている花を見ると心が落ち着く。そこから頑張ろうという気持ちになり、よりやる気が出てくる。見た目や咲く時期、色など違うところはたくさんある。だからこそ、季節ごとに楽しめる植物は最高のものだと思う。

中学二年生になった今でも、畑仕事を手伝ったり、花を眺めたりしている。学校生活で忙しくなったが、なかなか植物とは縁が切れない。

人の生活に大きく関わっている。特に、土いじりをしていけると、集中できる。他のことや嫌なことを忘れたり、気にしなくなったりする。木や花、野菜、自然をこれからも、大切にしていきたいと思う。なぜなら、今の地球では温暖化や環境破壊が進んでいるからだ。

人々がよりよい国をつくるために環境や植物の生態系をよそに発展を続けている。町でも小さな花壇の花や木を見かけることはある。しかし、自然に生えているものは山や森に行かないと見ることはできないだろう。SDGsの十七個の目標の中に環境に関するものはいくつかある。その目標を達成し、植物や動物などの自然と共存できる町ができればいいなと思っている。そのためにも、植物の勉強をしたり、植林のボランティアに参加したりしたい。他にも、私は美術部なので環境のポスターで自然の大切さを伝えることができるような絵を描きたい。大人になっても、作物や花の栽培をしていきたいと思う。